

飼い主のいない猫の適正管理

飼い主のいない猫は、もともとは飼い猫が捨てられたもの、また、避妊去勢手術をせずに外に出して飼われている猫が繁殖したものです。「猫を捕獲し、殺処分すればいい」との意見が中には見受けられますが、猫は「動物の愛護及び管理に関する法律」によって愛護動物とされており、みだりに殺したり傷つけたりすることは禁じられています。動物保護指導センターでも殺処分を目的とした捕獲、収容はしていません。

飼い主のいない猫の問題を解決するには、避妊去勢手術を行うなど適正な管理を行い「地域猫」として地域で世話をするなど、人が猫と共生していけるよう努める必要があります。マナーを守らない身勝手な餌やりはやめましょう。地域住民と飼い主のいない猫との共生を目指すなど、飼い主のいない猫を減らして地域の問題を解決していきましょう。ルールを守ることが地域の理解を得るための第一歩であり、「地域猫」活動への第一歩なのです。

飼い主のいない猫に餌を与えることは、決して悪いことではありません。しかし、餌を与えるだけで避妊去勢手術をしなければ子猫が産まれて、飼い主のいない猫が増えてしまいます。大切な命を守り、不幸な命を減らすためには、猫を適正に管理しなければなりません。飼い主のいない猫の世話をすることは、地域の方に配慮し、地域の中で適正に管理することが重要です。また、地域の方は、猫を排除するのではなく、命あるものとして見守ることが重要です。

「地域猫」活動は、猫を増やす活動ではなく、暮らしやすい地域社会をつくり、街をきれいにするための活動です。世話をすることも地域の方も、人と猫との共生を目指す「地域猫」活動について理解を深め、どうしたら問題が解決できるか地域で考えていきましょう。ここでは、飼い主のいない猫を「地域猫」として地域の中で適正に管理し、人と猫が共に暮らしていくための基本的な取組みについて示します。

(1) 地域の理解など

飼い主のいない猫の世話をすることは、餌やり場、排泄場所の設置や餌やりの時間等、地域の状況に応じたルール作りをし、地域の方に活動の趣旨などを説明し、理解などを得て取り組みましょう。1人ではなく、協力してくれる方などとグループを作り活動すると地域の方の理解を得やすくなります。活動を理解してもらうために地域の中でコミュニケーションを深めましょう。



(2) 避妊去勢手術の実施

飼い主のいない猫の世話をする際は、メスは避妊手術、オスは去勢手術を必ず実施しましょう。飼い主のいない猫の寿命は一般的に4～5年とされていることから、避妊去勢手術を行えば、子猫は生まれず、徐々に数が減少していきます。一代限りの命を全うさせつつ、不幸な猫の数を減らしていくことが重要です。

飼い主のいない猫の繁殖を抑え、その数を減らしていくことを目的に、捕獲(Trap)し、避妊去勢手術(Neuter)を施して元の場所に戻す(Return)活動のことをその頭文字を取って「TNR活動」と呼びます。

避妊去勢手術をする際は、手術していない猫と区別できるように、手術と同時に動物病院で耳先カットをしてもらいましょう。耳先カットは、オスは右耳、メスは左耳に行うと性別も区別できます。耳先カットにより猫に過度の苦痛を与えることはありません。

避妊去勢手術を行うことを目的に猫を一時的に保護する際、保護することが難しい人慣れしていない猫などの場合は、動物保護指導センターに相談してください。



避妊去勢手術をするとこんなに良いことがあります

- 不幸な猫が生まれなくなります。
- 尿スプレーや、独特の臭いも減ります。
- 行動範囲が狭くなるため、他の地域に迷惑がかからなくなります。
- 発情期の鳴き声も減ります。
- 穏やかな性格になり、喧嘩が減ります。
- 交尾や喧嘩によって起こる感染症を予防できます。
- 生殖器の病気を予防できます。

(3) 餌の管理

餌を与える場所は、地域住民に迷惑のかからない場所に固定しましょう。餌と水は、1日1～2回、決められた時間に与えるようにしましょう。餌の量は、食べきれぬ量を与え、食べ終わったら、残りの餌や容器を片付けて周辺を清掃しましょう。餌のあげっぱなしは絶対にしないでください。カラスやハエなどがたかったり、悪臭の原因になります。

(4) トイレの管理

トイレは、地域住民に迷惑がかからず人目に付かない場所に設置し、そこで排泄させましょう。猫は、プランターや物かげに砂や土を盛っただけでもトイレとして使います。トイレを清潔に保ち、排泄物は速やかに片付けましょう。地域を巡回し、トイレ以外の排泄物なども片付けましょう。

(5) 健康管理

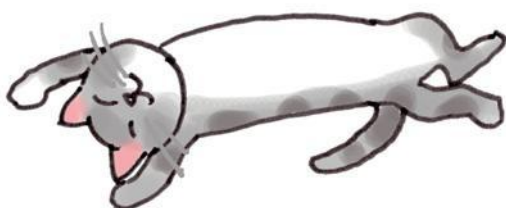
世話をしている猫の数や健康状態を把握し、異常が見られる場合は、動物病院で受診させましょう。病気の予防などについても、動物病院に相談しましょう。

(6) 飼い主探し

猫が屋外にいる以上、病気への感染や交通事故などの危険が付きまといまいますので、飼い猫として屋内で終生飼養してくれる方を探す努力をしましょう。

(7) 飼い主のいない猫を減らすために

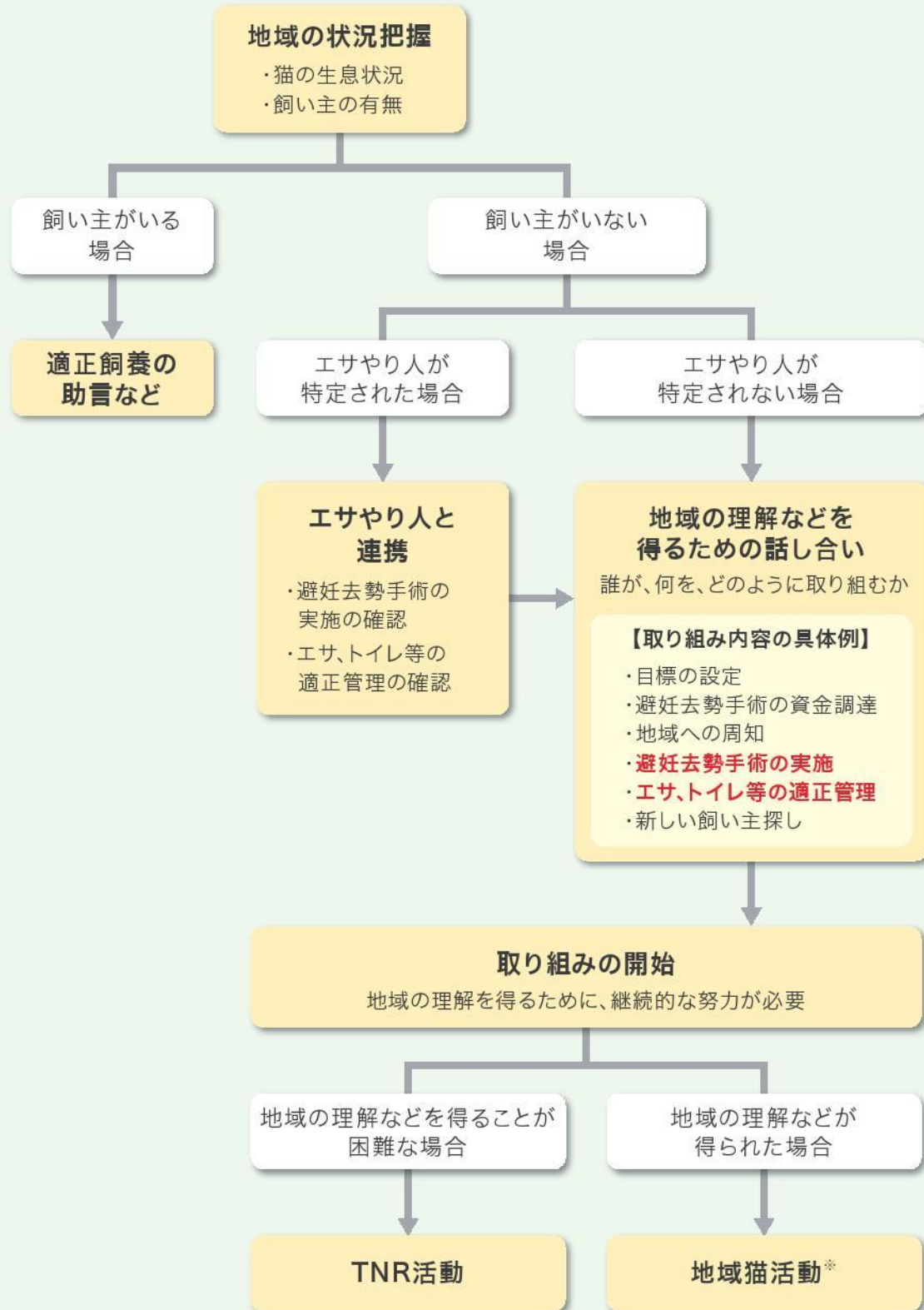
飼い主のいない猫の世話をする際に、「地域猫」としての理解などを得ることが困難な場合や住居などが無い場所で世話をする場合も、避妊去勢手術を実施し、適正な管理を行うことにより生息環境を清潔に保ち、飼い主のいない猫を減らす取り組みを行いましょ。生まれた子猫が幸せに生きられる場所は殆どありませんので、避妊去勢手術は必ず実施しましょ。



地域住民が飼い主のいない猫を適正に管理するための活動の例示

これは、飼い主のいない猫を適正に管理するための活動の流れです

- 飼い主のいない猫を適正に管理するための活動は、地域住民が主体となって行います。
- 活動の方法は、地域によって様々です。



※ TNR活動を含む